

理科

◆大設問ごとの内容と結果◆

大設問	主な出題内容	設問数	配点	受検者平均点	受検者得点率(%)
問 1	物理：光の屈折とレンズ、オームの法則、静電気	4	9	5.94	65.97
問 2	化学：物質の密度、電離、中和	4	9	3.81	42.32
問 3	生物：顕微鏡、脊椎動物の分類、酸素の運搬	3	9	4.58	50.93
問 4	地学：空気中の水蒸気、太陽系の惑星、地軸の傾き	3	9	2.90	32.23
問 5	物理：斜面上を運動する物体にはたらく力と速さ	6	16	8.16	50.99
問 6	化学：炭酸水素ナトリウムとクエン酸の反応	4	16	7.79	48.70
問 7	生物：土の中の微生物のはたらき、分解者	5	16	9.29	58.05
問 8	地学：日本付近の地震、地震計、P波・S波の速さ	5	16	9.16	57.24
		34	100	51.63	—

(「令和7年度神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果」より作成)

(参考：合格者平均点51.7)

◆概要◆

すべての設問が番号選択である点、大設問数・分野別の問題配列や小設問数は例年どおりでしたが、大設問ごとの小設問数に多少の変更がありました。また、学年別の配点では、昨年度より中1内容が多くなった反面、中2内容が少なくなりました。中3内容はやや少なくなったものの、依然として半分近くを占めています。選択肢の数では、4択のものが大きく減り、6択以上のものが増え、9択の問題も2年ぶりに出題されました。

昨年度から出題されるようになった会話文形式の小設問が、問7にみられました。計算問題は昨年度より出題数が少なくなったものの、1つのグラフや表から読み取った値を計算するものだけでなく、2つのグラフを組み合わせて判断するものなど、複数の資料を用いて結果を推定したりするものも例年通り出題されました。

全体を通して、学習した知識や実験・観察の結果を活用して解く問題が中心ですが、詳細な知識を問われたり、教科書範囲を超えた内容を考察したりする設問もあり、難易度は高くなっています。実験・観察の内容とその結果を読み取って判断する力だけでなく、詳細な知識や与えられた資料をもとに、考察・推測する力を身につけていく必要があります。平均点は昨年度より大きく低下し、2023年度と同じ程度になっています。

◆大設問ごとの出題傾向と難度◆

問1：(ア)例年の凸レンズの問題とは違い、通常の凸レンズと同じ光の進み方になるものを、見慣れない形のレンズから選ぶ問題でした。光の屈折の仕方について、冷静に吟味する必要性がありました。

問2：(ウ)昨年度と同様、中3のイオンに関する出題で、今年度は電池ではなく中和からの出題でした。選択肢がグラフになったことで、それらの読み取りに苦戦した受験生が多く、正答率は大きく低下しました。

問3：(イ)は脊椎動物を分類するのではなく分類のための観点を選ぶ問題、(ウ)は体内の酸素の運搬に関する勘違いしやすい知識を問う問題でした。例年正答率の高い分野にもかかわらず、正答率が低かったです。

問4：(ウ)「極夜」という教科書範囲を超えた内容に関する出題であり、持っている知識を活用しなければ解けない問題でした。正答率は15%を下回り、今年度で最も難しい問題でした。

問5：昨年度は中1・中2内容の融合問題でしたが、今年度は小球の運動や速さ(中3内容)に絞った出題でした。昨年度よりは解きやすい問題であり、正答率が10%程度上昇しました。

問6：発泡入浴剤の成分についての出題で、中1・中2内容の融合問題でした。特に(ウ)(エ)は、グラフの丁寧な読み取りや複雑な計算が必要となるため、昨年度よりかなり難しい問題でした。

問7：(イ)(ウ)対照実験の考え方を理解した上で、立てた仮説を導くための実験結果と、正しい考察を吟味する問題でした。学習した知識を、その場でさらに広げて考える思考力が必要な問題でした。

問8：(ア)(イ)は基本的な知識で解ける問題であり、(ウ)の図も読み取りやすいものでした。(エ)の緊急地震速報に関する出題も、内容の複雑さほど正答率は下がらず、大問全体では昨年度より高い正答率でした。